

学会だより

第 23 回 日本肝臓学会大会

竹井 謙之

(三重大学医学系研究科消化器内科)

平成から令和へー, 2019 年 11 月 21 日～22 日に神戸にて開催された JDDW2019 第 23 回日本肝臓学会大会は新しい肝臓病学の黎明を告げる記念すべき学会であった。会長の松崎靖司先生(東京医科大学茨城医療センター消化器内科)は学会のテーマを「ポスト HCV 時代の肝臓病学の展開～原点を考えよう肝臓病学～」とされた。ウイルス学を中心に発展してきた肝臓病学が、HCV 制圧という大きな目標に到達し、新たなフェーズに入ったことを見据えられての慧眼である。肝臓病学の原点とも言える、代謝学、生化学、細胞生物学など各方面からの研究アプローチが今後重要な研究課題になると指摘され、胆汁うっ滞、自己免疫性肝疾患、脂肪性肝疾患、肝発がん機序など、古くからのテーマを新しい視点から研究する次世代の肝臓病学が始まるとされた。

会場の神戸コンベンションセンターにはいつもとは異なる特別な心境を抱いて向かった。会長として本学会を主催するべく奮闘をされてきた松崎先生が、2018 年 12 月 9 日急逝されたからである。私が多大なご指導をいただいていた先生であり、ご逝去前日の肝臓学会東部会でも主題の司会をされておられる元気なお姿を拝見していたので、俄には訃報を信じるのができなかった。会長代行は松崎先生の長年の親友であり、胆汁酸研究の同志であられた滝川 一先生が務められた。



故 松崎 靖司 先生

滝川先生による追悼講演「胆汁酸研究と共に歩んだ松崎靖司先生」では、胆汁酸研究が生化学から病態解明、分子生物学、そして腸内細菌叢との関わりまで、時代の最先端の技術と概念を取り込んで自らの発展を可能としたばかりか、最先端のパラダイムの萌芽を育み、次世代への進化を涵養する「最先端研究室」の役割を果たしてきたこと、そして松崎先生が本分野をライフワークとして研究を先導され大きな足跡を残されたことを改めて認識した、涙を堪えながらの聴講であった。

大会は、松崎先生の薫陶を受けてこられた池上正教授が学会準備委員長として、先生の遺志を具現化すべく奔走された甲斐あって、どのセッションも盛会で実に印象的であった。

本学会のテーマを俯瞰すべく、松崎先生が企画された特別講演，招待講演の一覧を掲げる。

●特別講演

ペプチド創薬プロセスの革命とイノベーション

菅 裕明(東京大大学院・理学系研究科)

iPS細胞を用いたヒト肝臓の再構成

谷口英樹(東京大医科学研究所・幹細胞治療研究センター)

ウイルス肝炎研究の進歩と今後の課題

茶山一彰(広島大大学院・消化器・代謝内科学)

薬物性肝障害の現状と今後

滝川 一(帝京大・医療技術学部)

肝臓病理の歴史と未来

坂元亨宇(慶應義塾大・病理学)

●招待講演

Modulation of metabolic diseases through control of intestinal ceramide synthesis : The emergence of new drug targets in the gut

Frank J. Gonzalez

(National Cancer Institute, NIH)

New therapeutic concepts for management of cholestatic liver diseases

Michael Trauner

(Medical University of Vienna)

New paradigm of HCV treatment

Nezam Afdhal

(Beth Israel Deaconess Medical Center)

Research priorities for hepatitis elimination

Stefan Wiktor(University of Washington)

Recent advances in clinical research of HBV and HCC

Sang Hoon Ahn

(Yonsei University College of Medicine)

シンポジウム「胆汁酸研究の新たな臨床展開：自己免疫性肝疾患からウイルス肝炎，生活習慣病まで」では，胆汁酸研究の最新の進歩と臨床への展開に関して議論が行われ，出席者に裨益するところ大であった。胆汁うっ滞の新たな治療は世界的に臨床試験の段階に至っており，International Session Symposium「胆汁うっ滞の病態から新治療への展開」が企画された。Frank J. Gonzalez教授を交え現在までの到達点と今後の展開について充実した議論がなされた。シンポジウム「肝臓病学におけるウイルス肝炎診療のあゆみと今後の展望」ではウイルス肝炎診療学の進歩を総括し，次世代へ橋渡しをすることが企図された。肝臓病理学，脂肪性肝疾患，B型肝炎，自己免疫性肝疾患，薬物性肝障害，肝炎の疫学，肝がん診療をテーマとした主題では，それぞれ最新のエビデンス発表を通して，現状と今後の展望に関して闊達かつ建設的な議論が行われた。

第23回日本肝臓学会大会，それは真理の継承と変化の受容が協奏して歩んできた肝臓病学のマイルストーンを総括し，松崎先生はじめ偉大な先人たちが示した光輝ある道標に導かれつつ，肝臓生命医科学の未来を探訪する旅であった。